

春日井市福祉に関するアンケート調査

分析結果（概要版）

I 調査の概要

令和8年度末に（仮称）春日井市総合福祉計画を策定するにあたり、対象者及び関係者の実態と意向を把握し、計画改定の基礎的な資料とすることを目的として、アンケート調査を行いました。

（1）アンケート調査の概要

区分	一般高齢者	要支援・要介護認定者	障がいのある人	一般市民
調査客体	要支援・要介護認定を受けていない65歳以上の方から無作為抽出	要支援・要介護の認定の方から無作為抽出	障がい者手帳を所持している方等から無作為抽出	市内在住の18歳以上65歳未満の方から無作為抽出
調査票の配布・回収	郵送配布、郵送またはWEB回答	郵送配布・郵送回収	郵送配布、郵送またはWEB回答	二次元コードを付したチラシの配布、WEB回答
調査基準日	令和7年12月1日	令和7年12月1日	令和7年12月1日	令和7年12月1日
調査期間	令和7年12月1日～令和7年12月12日	令和7年12月1日～令和7年12月12日	令和7年12月1日～令和7年12月12日	令和7年12月1日～令和7年12月12日

（2）アンケート調査の結果概要

区分	一般高齢者	要支援・要介護認定者	障がいのある人	一般市民
配布数（A）	800件	1,000件	2,000件	450件
回収件数（B）	567件	589件	976件	194件
回収率（B/A）	70.9%	58.9%	48.8%	43.1%

II 一般高齢者調査結果からみた高齢者の状況

POINT 1

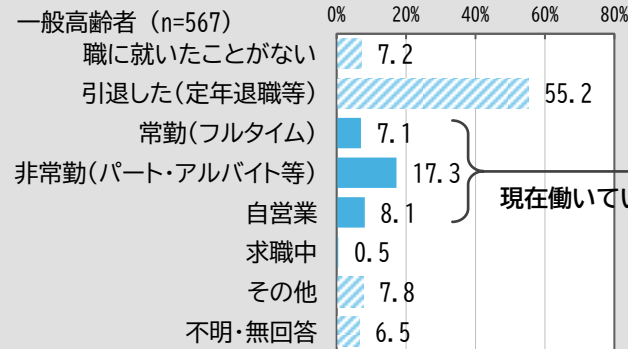
現在働いている高齢者の約6割が75歳以降も就業継続を希望している。

現在の就労状況は、「引退した（定年退職等）」が55.2%と最も高くなっています。

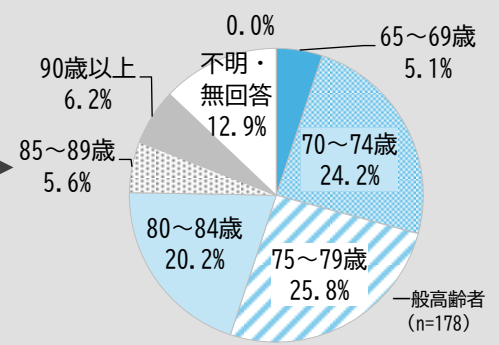
現在働いている高齢者は、「非常勤（パート・アルバイト等）」が17.3%、「自営業」が8.1%、「常勤（フルタイム）」が7.1%となっています。

現在働いている高齢者が何歳まで働きたいかは、「75～79歳」が25.8%と最も高くなっています。なお、75歳以上まで働きたいと考えている割合は57.8%となっています。

◆現在の就業状況（問5Q1）



◆何歳まで働きたいか（問5Q1-1）



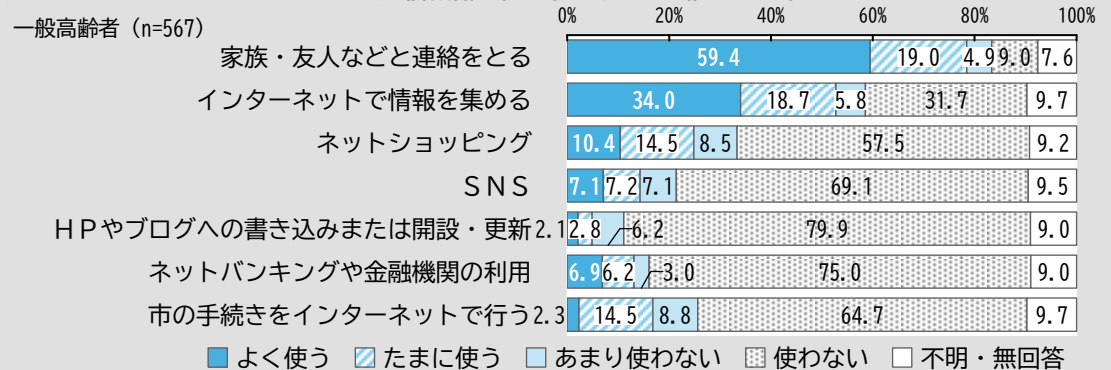
POINT 2

スマホやパソコンを連絡に使用する人は約8割、インターネットで使用する人は約5割、一方その他は使用しないが半数以上。

スマートフォンやパソコンなどの通信機器を『使う』割合は、「家族・友人などと連絡をとる」が78.4%と最も高く、次いで「インターネットで情報を集める」が52.7%となっています。

*『使う』=「よく使う」と「たまに使う」を合わせた割合

◆スマートフォンやパソコンなどの通信機器を何に利用するか（問5Q4）



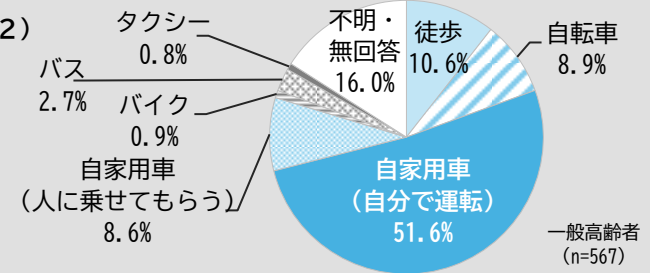
POINT
3

移動手段は自分で運転する「クルマ」が約5割。

主な移動手段は、「自家用車（自分で運転）」が51.6%と最も高く、次いで「徒歩」が10.6%となっています。

◆移動する場合の主な移動手段（問5Q2）

※外出の目的「(1) 買い物」「(3) 通院」「(4) 友人との交流」を合わせて集計。



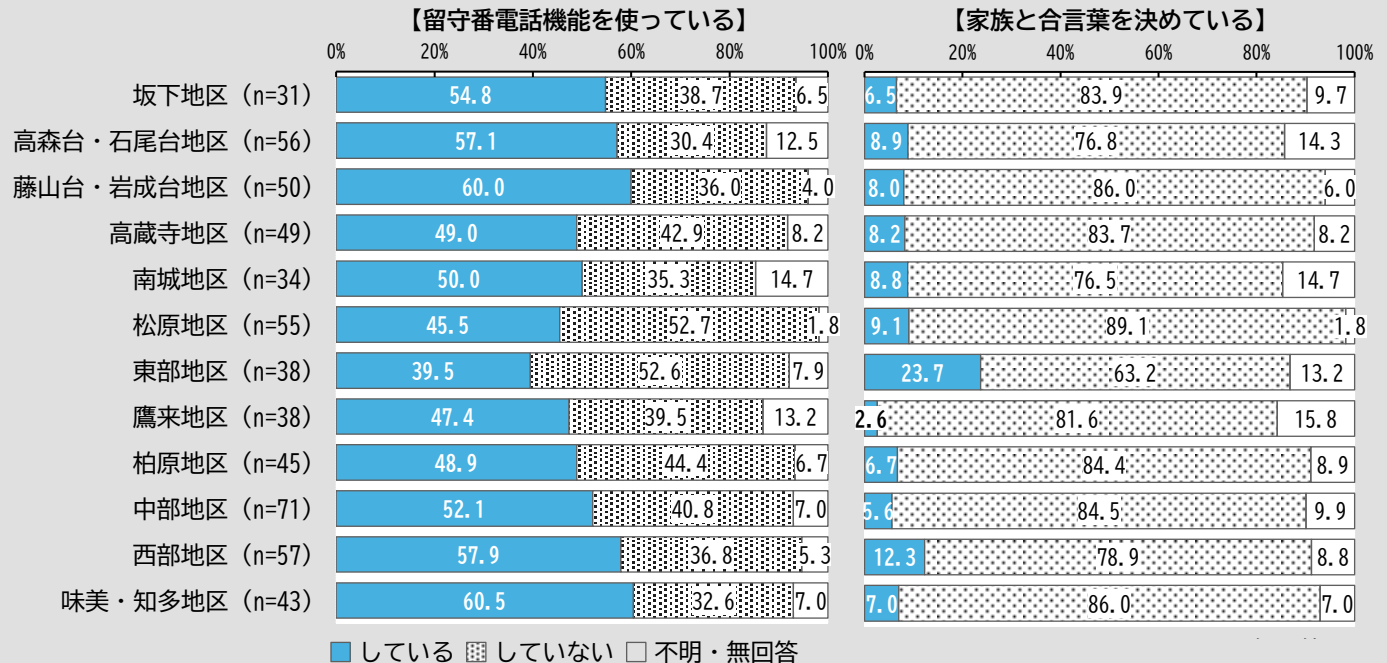
POINT
4

防犯意識は地域差があり。

オレオレ詐欺などの対策について、圏域別にみると、留守番電話機能を使っている割合が最も高いのは味美・知多地区で60.5%となっています。一方で、最も低いのは東部地区で39.5%となっています。

家族と合言葉を決めている割合が最も高いのは東部地区で23.7%となっています。一方で、最も低いのは鷹来地区で2.6%となっています。

◆オレオレ詐欺などの対策（問5Q5）



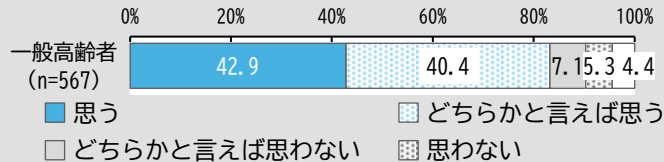
POINT 5

見守りや安否確認サービスの充実を求める人が**約8割**と高い一方で、緊急通報サービスの利用は**約1割**にとどまっている。
約8割の人がとっている**新聞**が、実質的な見守り役を担っている。

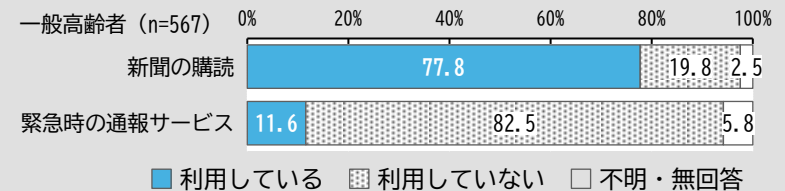
見守りや安否確認サービスが充実した方がよいと思う割合は83.3%となっています。

サービスの利用状況は、「新聞の購読」で利用しているが77.8%、「緊急時の通報サービス」で利用しているが11.6%となっています。

◆見守りや安否確認サービスが充実した方がよいと思うか（問5Q9）



◆サービスの利用状況（問5Q8）



POINT 6

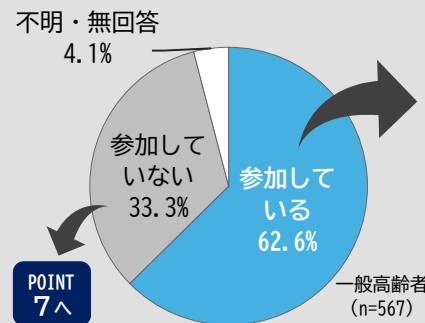
地域の活動に参加している人の多くは、**いきがい**や**心身の健康**を感じている。

地域のなんらかの活動に参加している人は62.6%となっています。

参加している人のうち、いきがいを
 感じている人は男性で66.3%、女性で
 69.2%となっています。また、心身の
 健康を感じている人は男性で72.8%、
 女性で75.3%となっています。

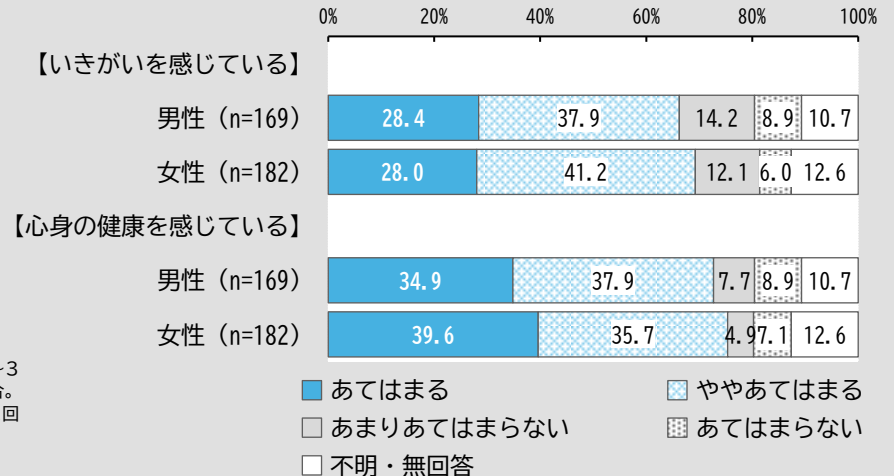
*『感じている』＝「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合

◆地域の活動に参加しているか（問6Q1）



『参加している』は、問6Q1(1)～(8)で「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」のいずれかを回答した割合。
 『参加していない』は、問6Q1(1)～(8)で「参加していない」と回答した割合。

◆活動に参加する中で感じること（問6Q1-1）



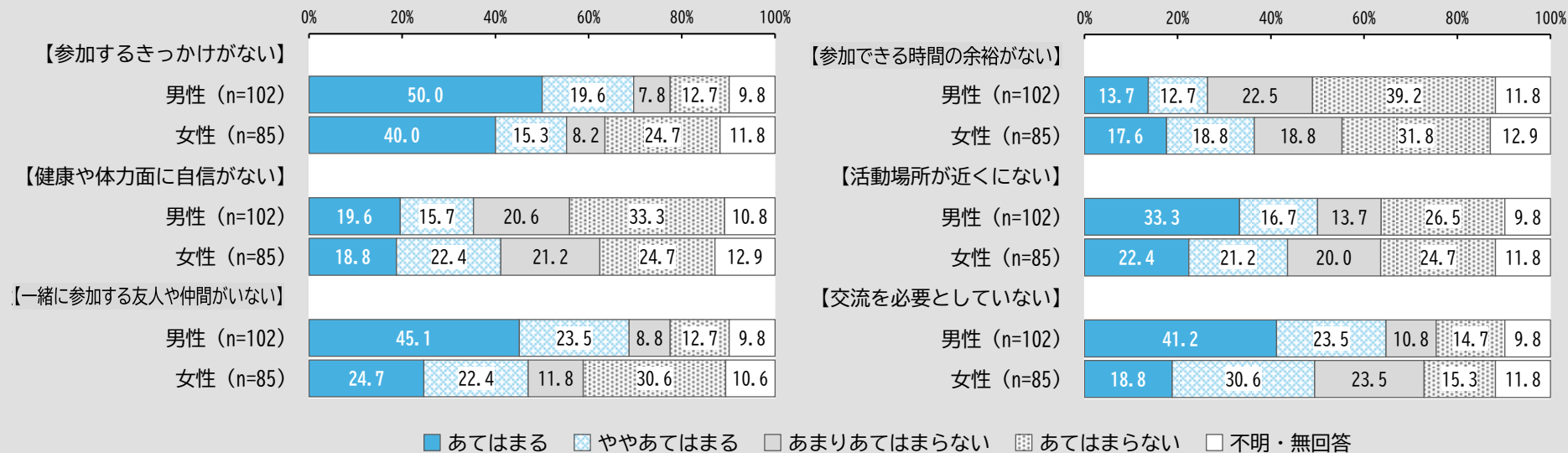
POINT
7

男女ともに「きっかけ不足」が地域活動に不参加の理由となっている。また、男性は「交流の拒絶」や「仲間不足」、女性は「健康面」や「時間的制約」がそれぞれ障壁となっている。

地域の活動に参加していない人の参加しない理由は男性、女性ともに「参加するきっかけがない」がもっとも高くなっています。

「参加するきっかけがない」「一緒に参加する友人や仲間がない」「活動場所が近くにない」「交流を必要としていない」で女性より男性で『あてはまる』の割合が高くなっています。また、「健康や体力面に自信がない」「参加できる時間の余裕がない」で男性より女性で『あてはまる』の割合が高くなっています。

◆地域の活動に参加していない理由（問6Q1-2）



POINT
8

自立生活を望む高齢者の意向に対し、一般市民は「施設・病院への入所・入院」や「同居の難しさ」のイメージや考えが強い。

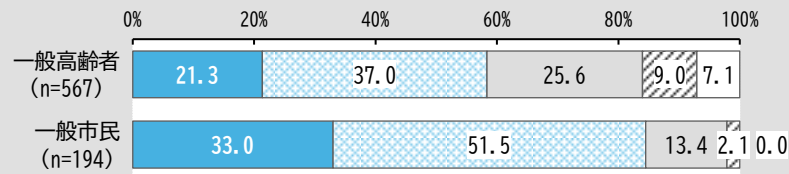
認知症に関するイメージや考え方について、一般高齢者では「自分が認知症になっても適切な支援を受けて自立して生活したい」で『思う』が75.3%と最も高くなっています。一般市民では、「認知症の人と一緒に生活するのは難しい」で『思う』が89.1%と最も高くなっています。

また、「自分もいずれ認知症になる」で『思う』が一般市民で84.5%と、一般高齢者と比べて26.2ポイント高くなっています。

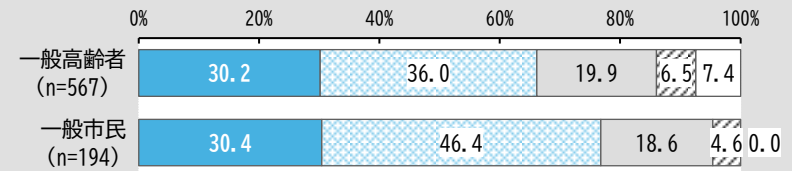
*『感じている』 = 「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合

◆認知症に関するイメージや考え方（一般高齢者：問9Q3、一般市民：問9）

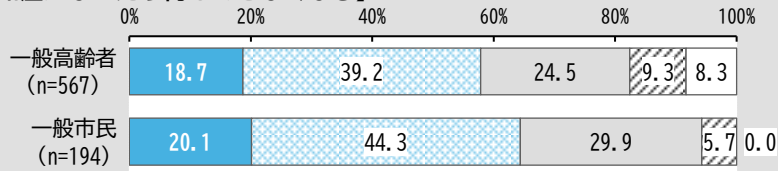
【自分もいずれ認知症になる】



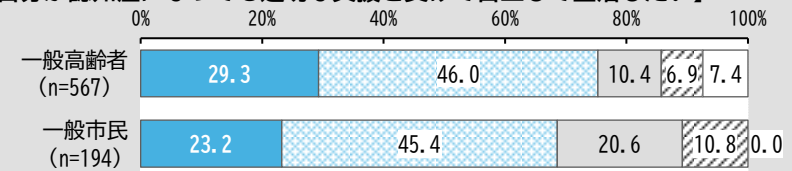
【認知症になったら施設や病院で過ごした方がよい】



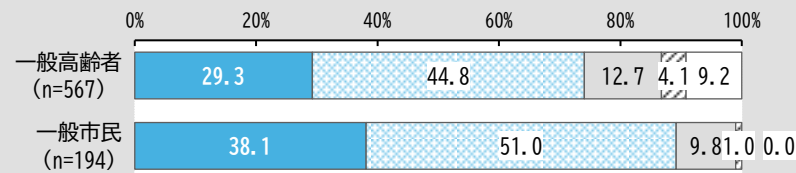
【認知症になったら何もできなくなる】



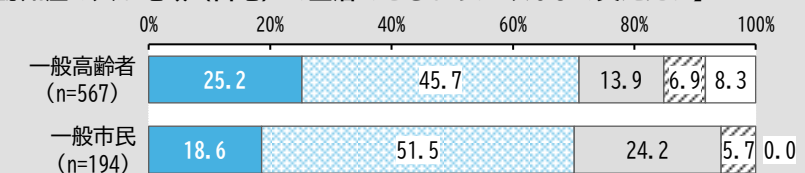
【自分が認知症になっても適切な支援を受けて自立して生活したい】



【認知症の人と一緒に生活するのは難しい】



【認知症の人が地域（自宅）で生活できるようにみんなで支えたい】



■ 思う ■ どちらかと言えば思う □ どちらかと言えば思わない ▨ 思わない □ 不明・無回答

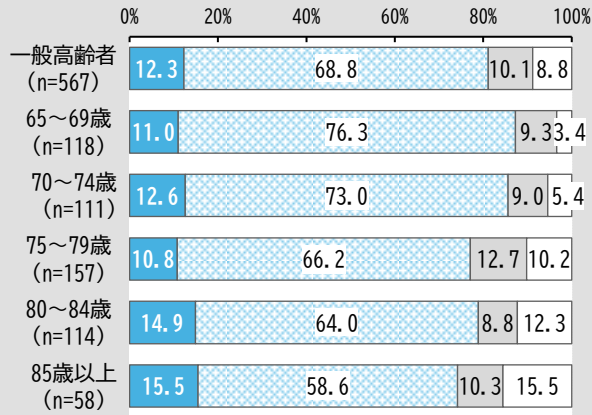
POINT
9

終活は「**今後備えたい**」が**多数**。片付けや葬儀といった**身近な準備への意向は高い**一方で、
遺言書の作成や成年後見制度などの**法的な備え**については、制度などの理解や利用の**ハードルが高い**ことが考えられる。

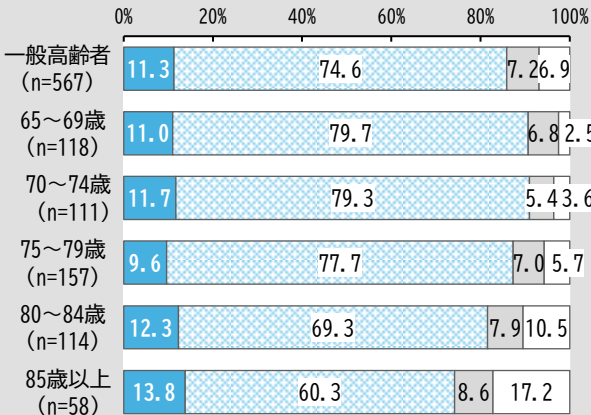
終活（死後の手続きや準備）にどの程度備えているかについて、「成年後見制度の利用」以外の項目で「備えていないが、今後備えたい」が最も高くなっています。「葬儀の事前準備」で「備えている」が14.6%と最も高くなっています。

◆終活（死後の手続きや準備）にどの程度備えているか（問10Q3）

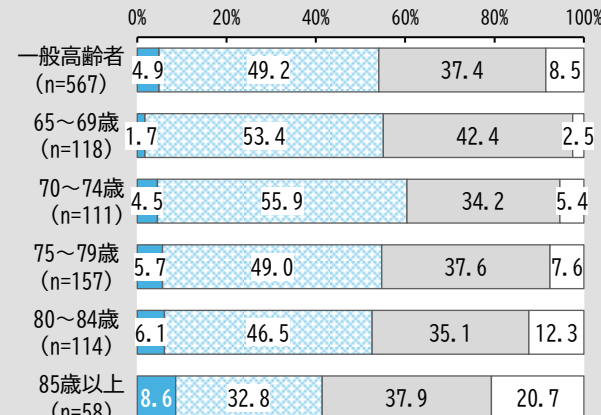
【相続税や生前贈与などの資産の生前整理】



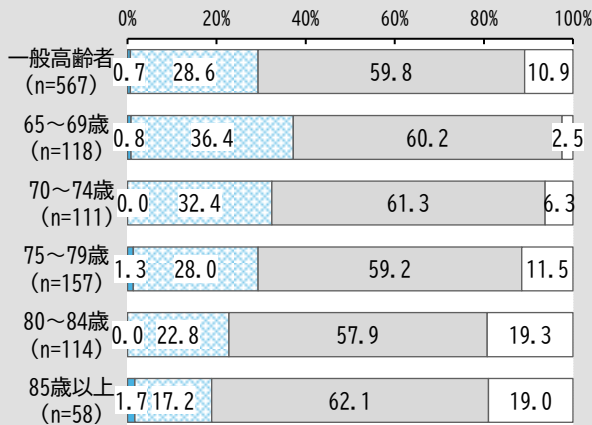
【身の回りの引継・処分などモノの生前整理】



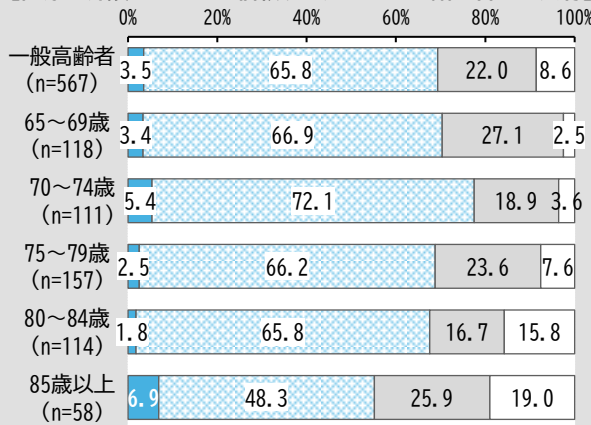
【遺言書の作成】



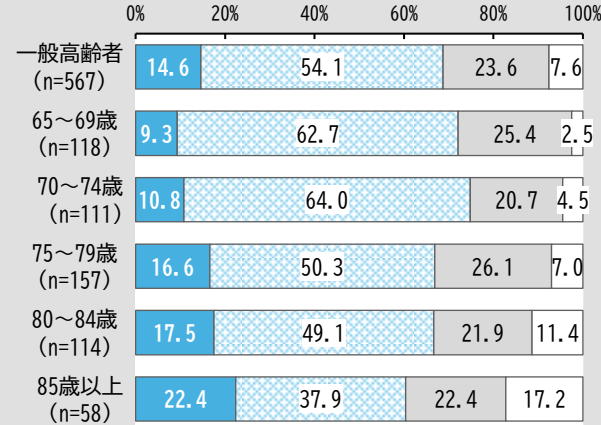
【成年後見制度の利用】



【医療や介護についての信頼する人たちとの話し合いや共有】



【葬儀の事前準備】



■ 備えている ■ 備えていないが、今後備えたい ■ 備えるつもりはない ■ 不明・無回答

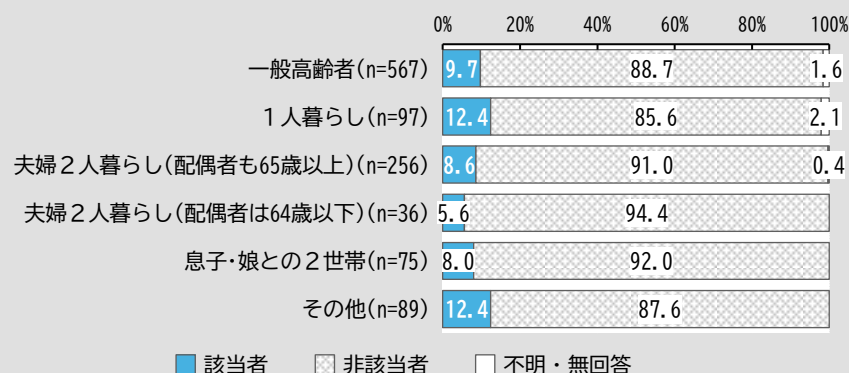
機能評価の項目別結果

自立度は高いが、フレイル前段（転倒不安・口腔・外出負担）の人が多い。

①運動機能が低下している高齢者

該当者は9.7%となっています。

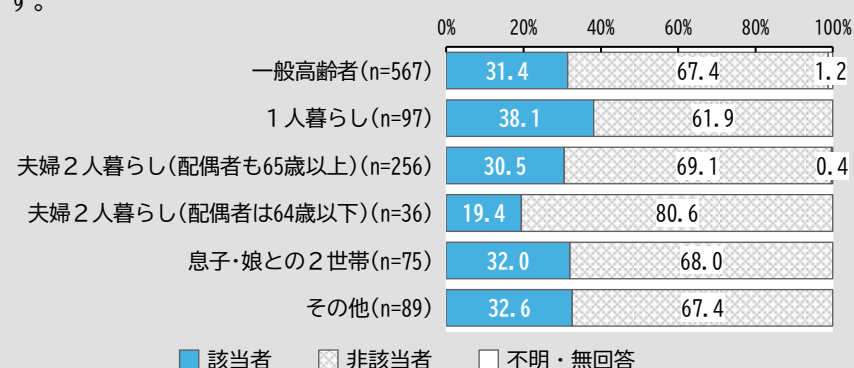
1人暮らしで、他の生体構成より該当者の割合が高くなっています。



②転倒リスクのある高齢者

該当者は38.1%となっています。

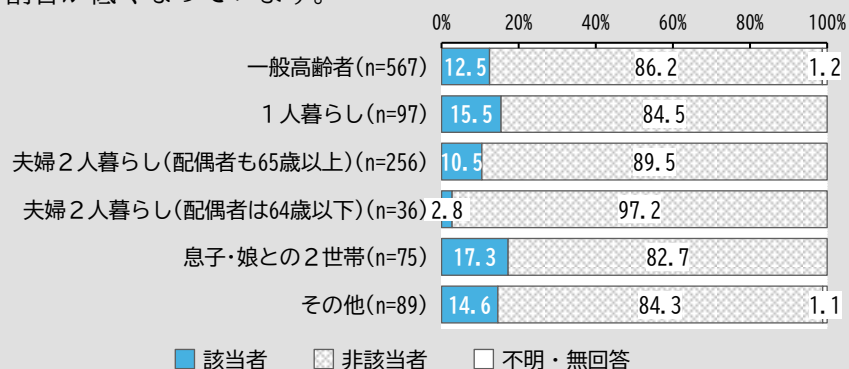
夫婦2人暮らしで、他の世帯構成より該当者の割合が低くなっています。



③閉じこもり傾向のある高齢者

該当者は12.5%となっています。

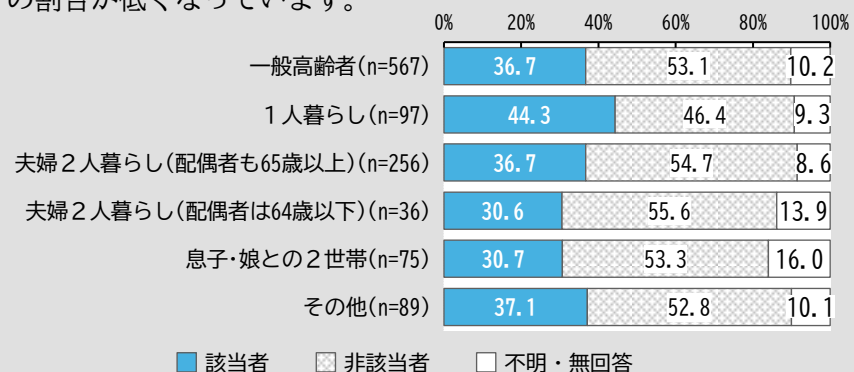
夫婦2人暮らし（配偶者は64歳以下）で、他の世帯構成より該当者の割合が低くなっています。



④認知機能の低下がみられる高齢者

該当者は38.1%となっています。

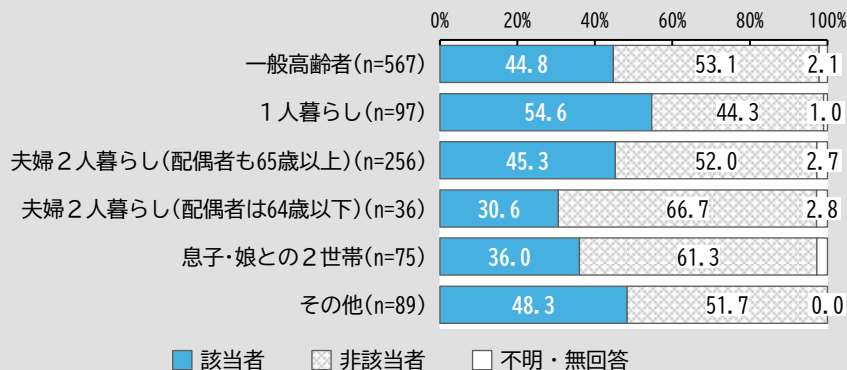
夫婦2人暮らし（配偶者は64歳以下）で、他の世帯構成より該当者の割合が低くなっています。



⑤ うつ傾向の高齢者

該当者は 54.6% となっています。

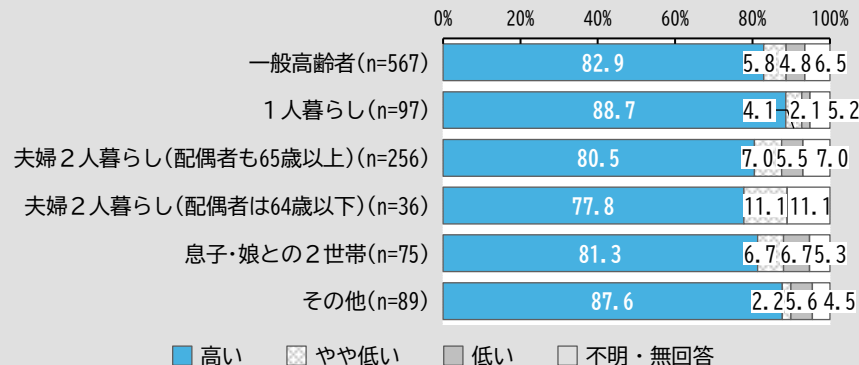
夫婦 2 人暮らし（配偶者は 64 歳以下）で、他の世帯構成より該当者の割合が低くなっています。



⑥ IADL (手段的日常生活動作)

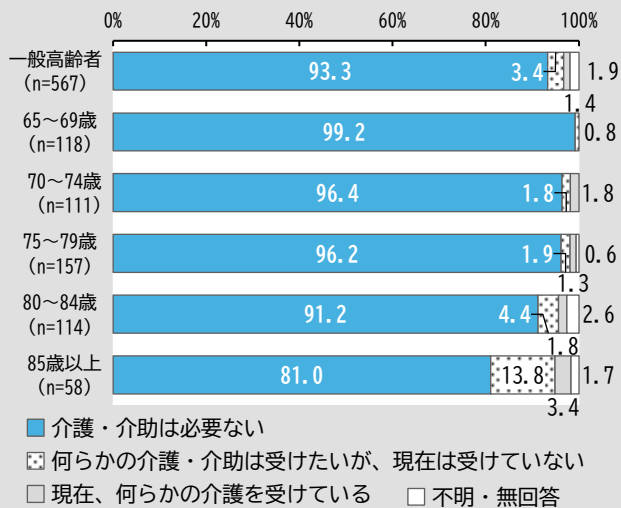
『低い』は 10.6% となっています。

夫婦 2 人暮らし、息子・娘との 2 世帯で、他の世帯構成より『低い』の割合が高くなっています。*『低い』=「やや低い」と「低い」を合わせた割合



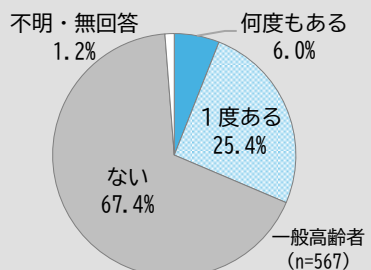
● 一般高齢者の状況

◆ 介護・介助の必要 (問 1 Q 4)

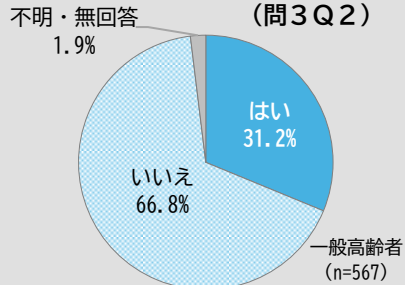


介護・介護が必要ない人が 93.3% だが、年齢が高くなるにつれ、その割合は減少。

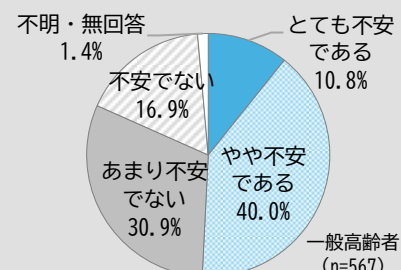
◆ 過去 1 年の転倒の経験 (問 2 Q 4)



◆ 半年前より硬い者が食べにくい (問 3 Q 2)

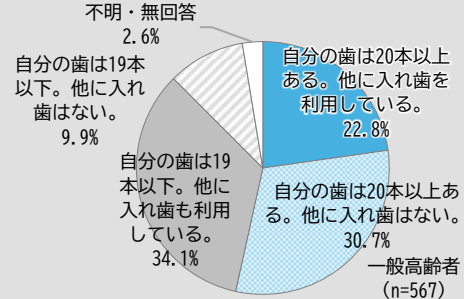


◆ 転倒に対する不安 (問 2 Q 5)



転倒の経験がある人は 31.4%。
転倒の不安がある人は 50.8%。

◆ 転倒に対する不安 (問 2 Q 5)



固いものが食べにくくなった人は 31.2%。
自分の歯が 19 本以下で入れ歯をしている人が 34.0%。

Ⅲ 要支援・要介護認定者調査結果からみた介護者の状況

POINT 1

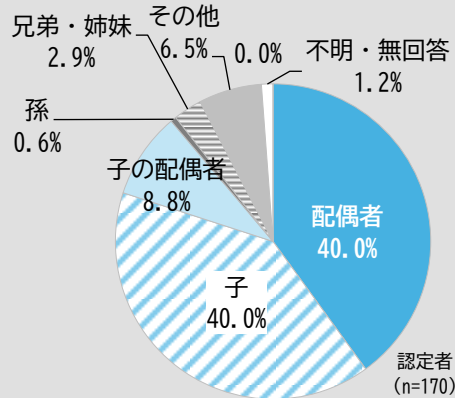
介護の軸は**配偶者**や**子**が担っており、主な介護者の**約6割**が70代以上という「**老老介護**」の状態にある。

主な介護者は、「配偶者」「子」がそれぞれ40.0%と最も高く、次いで「子の配偶者」が8.8%となっています。

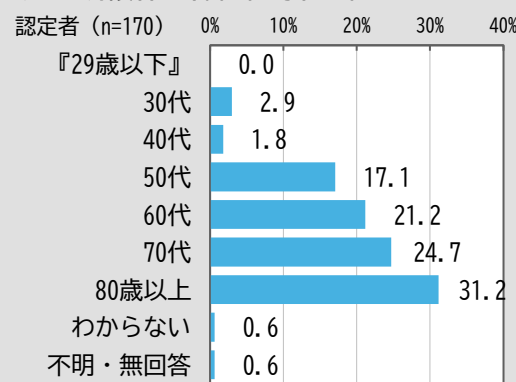
主な介護者の年齢は、「80歳以上」が31.2%と最も高く、次いで「70代」が24.7%となっています。

主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が58.8%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、「働いていない」が8.8ポイント増加し、「パートタイムで働いている」が6.3ポイント減少しています。

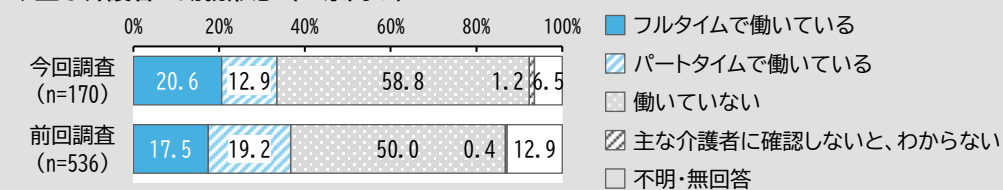
◆主な介護者（B票問1）



◆主な介護者の年齢（B票問3）



◆主な介護者の勤務形態（B票問6）

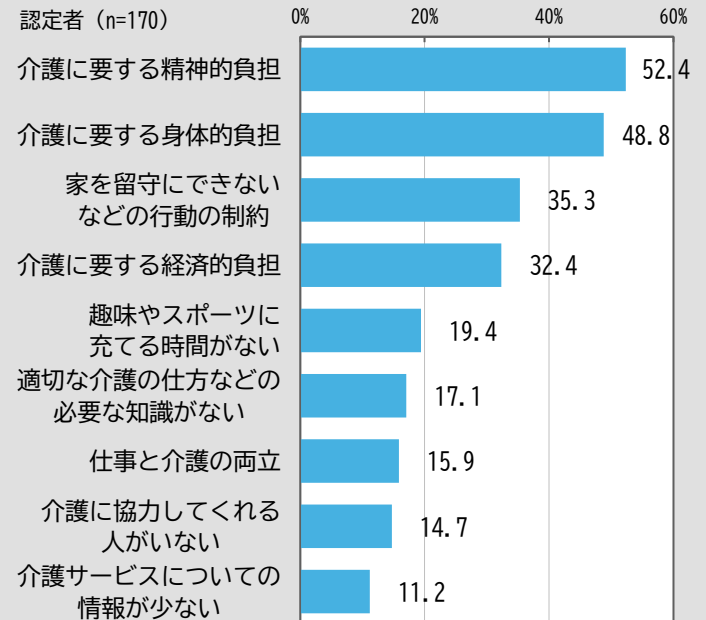


POINT 2

介護者は**精神的負担**や**肉体的負担**を感じており、身体的介助や家事支援だけでなく、介護者の孤立や不安を和らげるための支援も必要。

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が困っていることは、「介護に要する精神的負担」が52.4%と最も高く、次いで「介護に要する肉体的負担」が48.8%となっています。

◆現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が困っていること（B票問9）※上位10意を抜粋



IV 障がいのある人への調査からみた状況

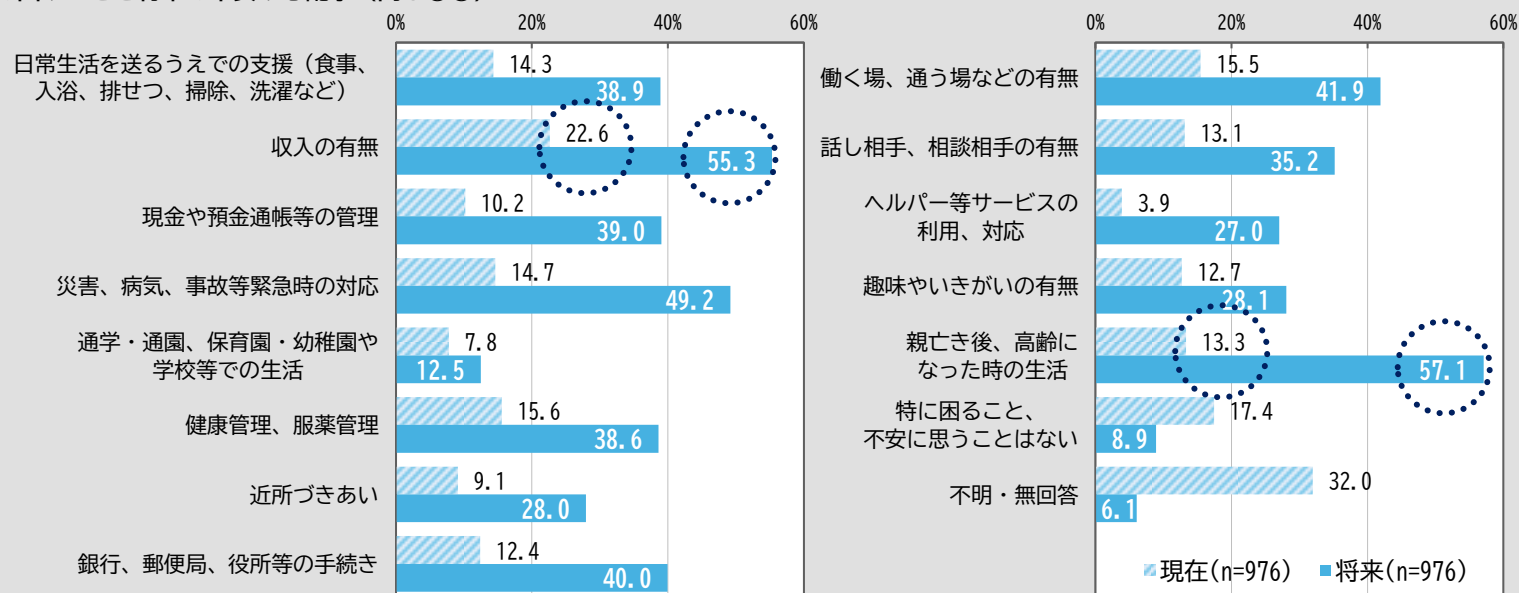
POINT 1

現在、「親亡き後」の生活に不安を抱いている人は約1割にとどまっているが、将来に対しては5割以上が不安を抱いている。

現在の生活上の困りごとは、「不明・無回答」を除き、「収入の有無」が22.6%と最も高くなっています。

将来の不安や心配事は、「親亡き後、高齢になった時の生活」が57.1%と最も高く、次いで「収入の有無」が55.3%となっています。

◆現在の生活上の困りごとと将来の不安や心配事（問8①②）



現在の困りごとについて、障がい別では、精神障がいのある人で「収入の有無」や「働く場、通う場などの有無」が他の障がいのある人と比べて高くなっています。

将来の不安について、知的障がいのある人、発達障がいのある人の8割以上が「親亡き後、高齢になった時の生活」をあげており、他の障がいのある人と比べて高くなっています。

POINT
2

「差別解消や虐待防止」「災害に困らない体制づくり」「医療的ケアが必要な人等への支援」が重点課題となっている。

「差別解消や虐待防止」「災害に困らない体制づくり」「医療的ケアが必要な人等への支援」について、各障がいとともに重要度が高く満足度が低い重点課題施策となっています。

◆市の施策の重要度・満足度（問 21）

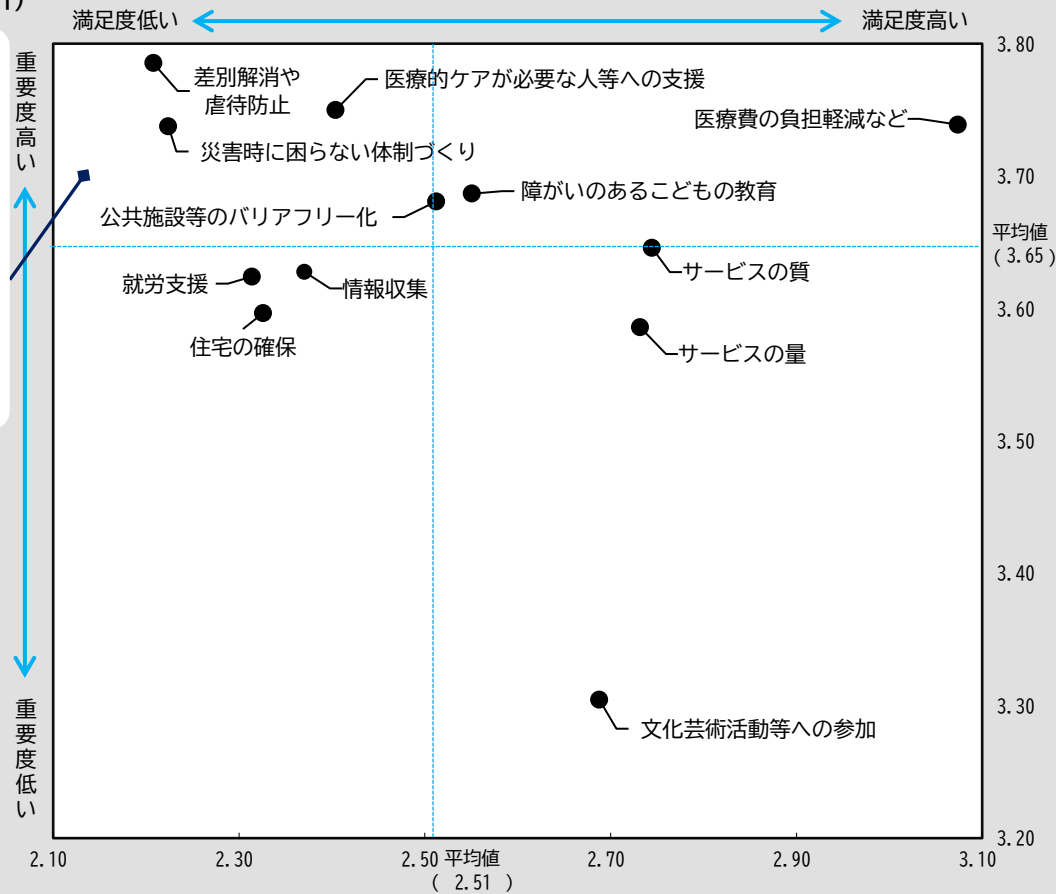
障がい別では…

身体障がいのある人で
「公共施設等のバリアフリー化」

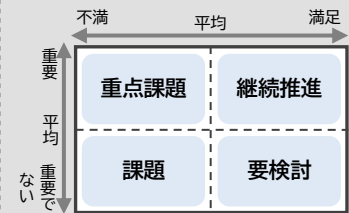
知的障がいのある人で
「住宅確保」

精神障がいのある人で
「就労支援」

「障がいのあるこどもの教育」
がそれぞれ重要度が高く満足度が低い施策となっています。



※ポートフォリオとは、各属性についての満足度と総合満足度への影響度を二次元にプロットした図です。それぞれの選択肢を4段階評価で聞き、X軸に各属性の満足度、Y軸に重要度（期待値）として総合満足度と各満足度の偏相関係数を表しています。なお、図は4象限に分けられ、象限を分ける境界線は、満足度、重要度の各平均値を使用しています。



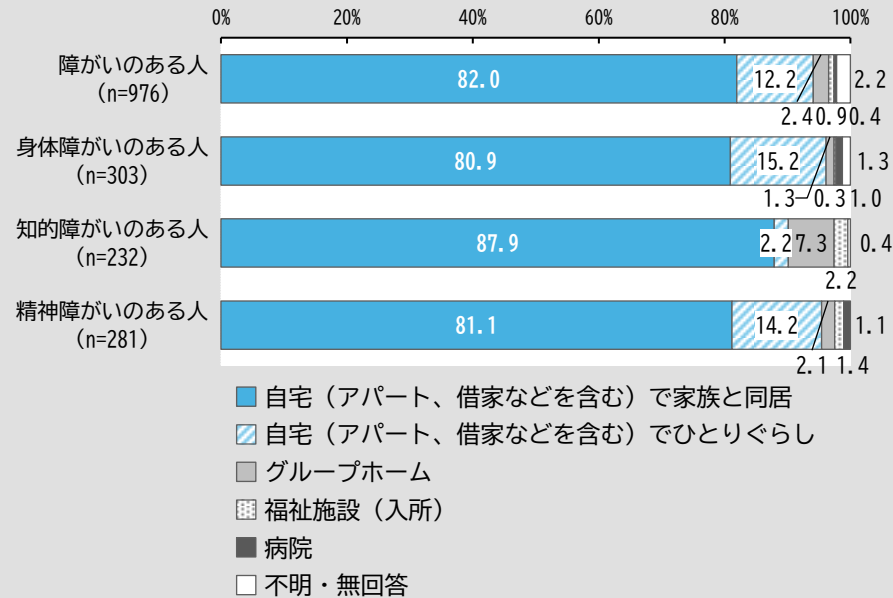
POINT
3

現在ひとりぐらしをしている人は**約1割**にとどまっているが、**将来ひとりぐらしを希望する人は約2割**となっている。

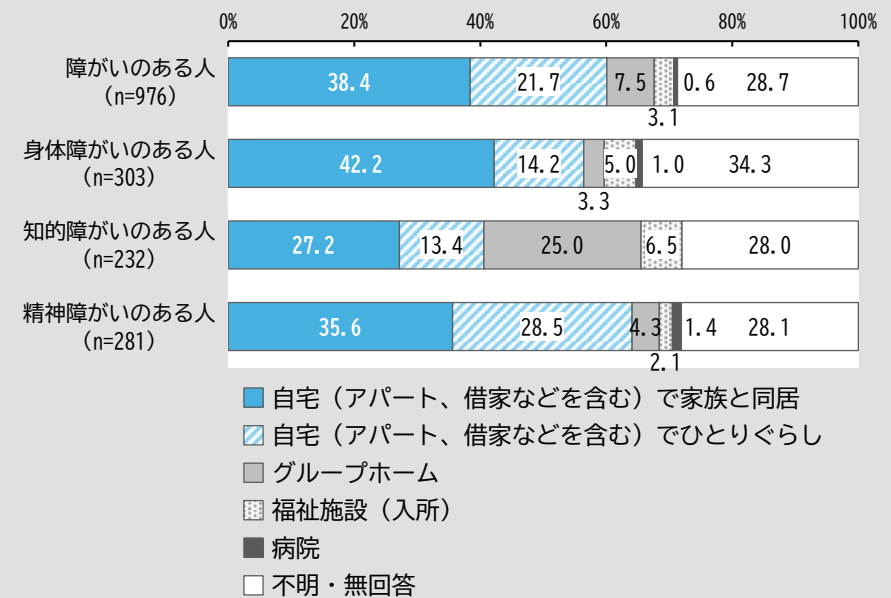
現在どこでくらしているかは、全体で「自宅（アパート、借家などを含む）で家族と同居」が82.0%と最も高くなっています。障がい別では、知的障がいのある人で「グループホーム」が7.3%と他の障がいのある人と比べて高くなっています。

将来どこでくらしたいかは、全体で「自宅（アパート、借家などを含む）でひとりぐらし」が21.7%と現在と比べて高くなっています。障がい別では、知的障がいのある人で「グループホーム」が25.0%、精神障がいのある人で「自宅（アパート、借家などを含む）でひとりぐらし」が28.5%とそれぞれ高くなっています。

◆現在どこでくらしているか（問6①）



◆将来どこでくらしたいか（問6②）



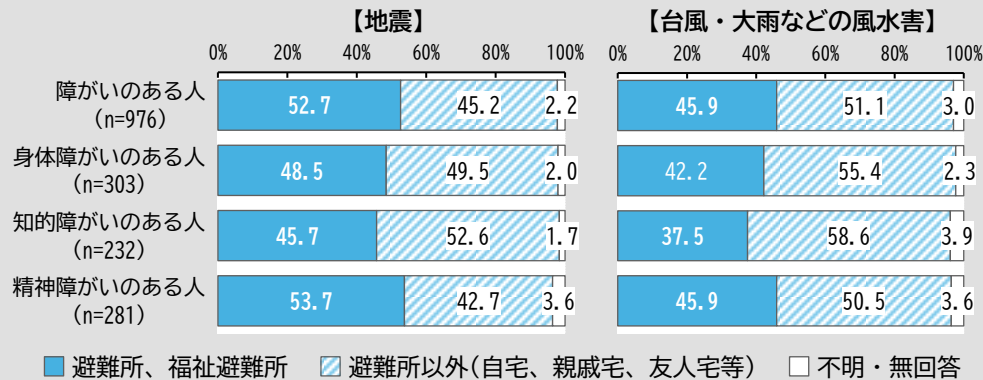
POINT
4

約5割が災害時の在宅避難を希望している。「生活環境」や「ストレスの大きさ」などが避難所等に避難しない主な理由となっている。

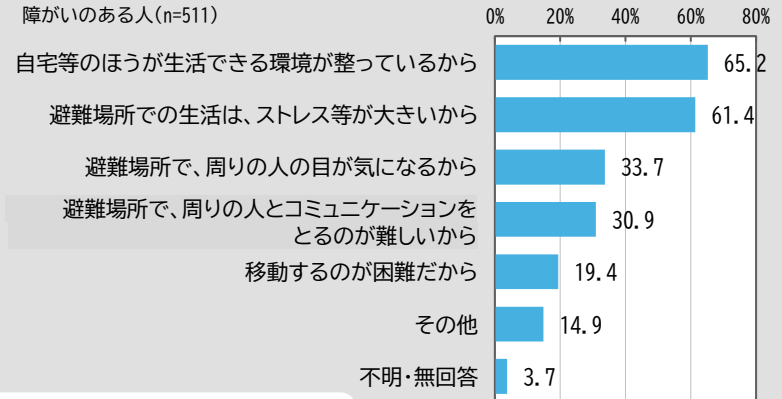
災害が起きた時の避難先は、全体で地震の際は「避難所、福祉避難所」が52.7%、台風・大雨などの風水害の際は「避難所以外（自宅、親戚宅、友人宅等）」が51.1%となっています。

また、避難場所として避難所以外を考えている理由は、「自宅等のほうが生活できる環境が整っているから」が65.2%と最も高く、次いで「避難場所での生活は、ストレス等が大きいから」が61.4%となっています。

◆災害が起きた時の避難先（問12）



◆避難場所として避難所以外を考えている理由（問13）



障がい別では、「自宅等のほうが生活できる環境が整っているから」は身体障がいのある人で69.9%、「避難場所での生活は、ストレス等が大きいから」は精神障がいのある人で73.6%とそれぞれ他の障がいのある人と比べて高くなっています。

POINT 5

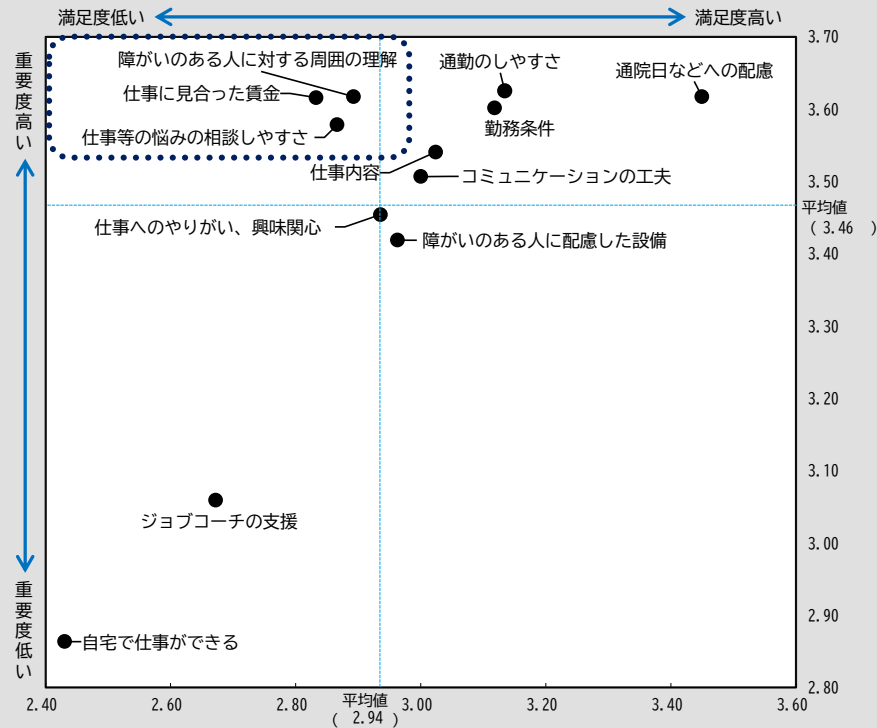
障がいのある本人は「**周囲の理解**」や「**賃金**」について、さらなる充実を望んでいる一方で、一般市民の約半数は「**周囲の理解がされている**」と回答しており、本人が求める水準と周囲の認識に乖離がみられる。

仕事において重要度が高く満足度が低いことは、「障がいのある人に対する周囲の理解」「仕事に見合った賃金」「仕事等の悩みの相談のしやすさ」となっています。

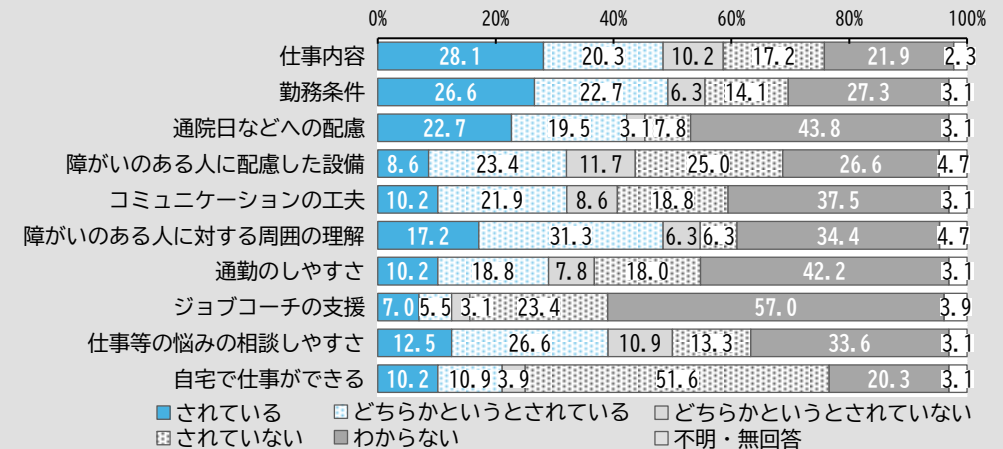
一般市民調査では、職場で障がいのある人が働くにあたっての配慮や工夫が『されている』ことは「障がいのある人に対する周囲の理解」が48.5%と高くなっています。また、「障がいのある人に対する周囲の理解」「仕事等の悩みの相談のしやすさ」については約3分の1が「わからない」と答えています。

*『されている』=「されている」と「どちらかというとされている」を合わせた割合

◆仕事における重要度・満足度（問17）



◆職場において障がいのある人が働くにあたっての配慮や工夫がされているか（一般市民問7）



POINT
6

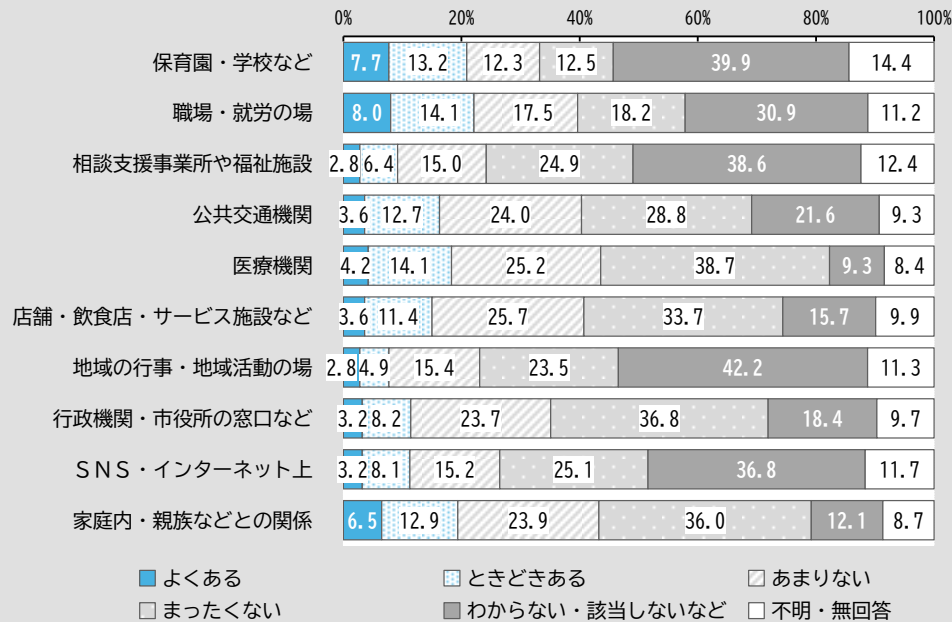
あらゆる場面で偏見や差別が少なからずあり、特に身近な「**保育園・学校**」「**職場・就労の場**」で高くなっている。

不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことが『ある』場面は、全体で「**職場・就労の場**」が22.1%と最も高く、次いで「**保育園・学校など**」が20.9%となっています。

一般市民調査によると、障がいのある人が障がいがあることで偏見や差別を受けているのに遭遇した場面について、「そういう場面に遭遇したことはない」がすべての障がいにおいて最も高くなっています。次いで「SNS・インターネット上」、「**保育園・学校など**」が高くなっています。

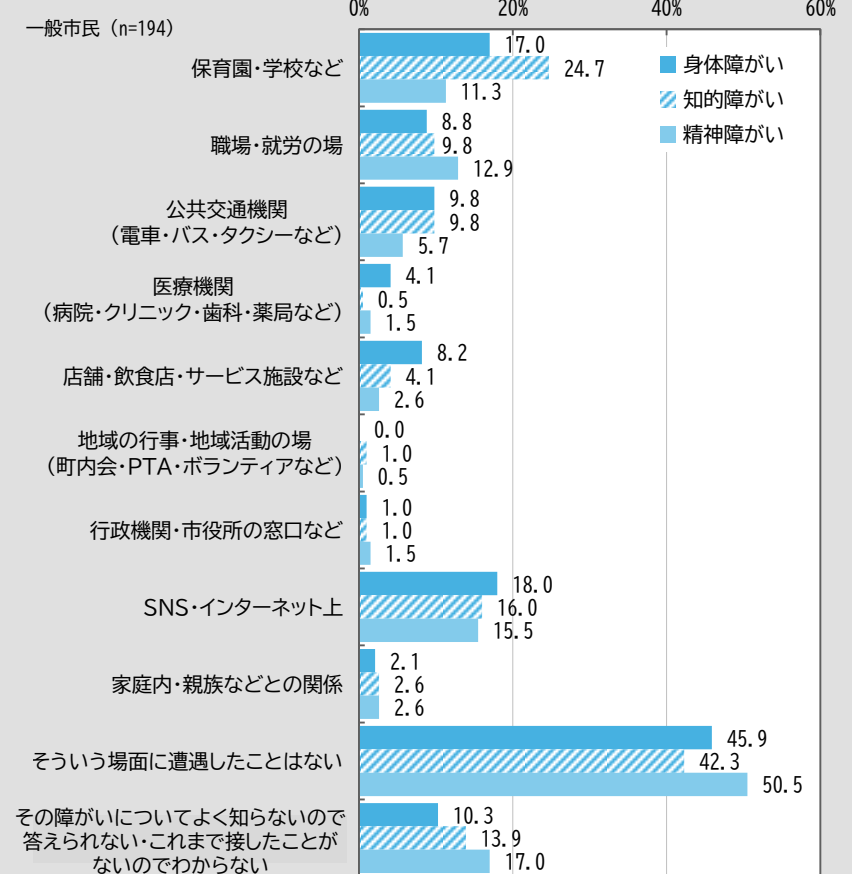
*『ある』＝「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合

◆次の場面で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがあるか（問18）



障がい別では、知的障がいのある人で「**保育園・学校など**」「**店舗・飲食店・サービス施設など**」、精神障がいのある人で「**職場・就労の場**」「**家庭内・親族などとの関係**」において、他の障がいのある人と比べて不適切な対応をされたり、いやな思いをしたことが『ある』割合が高くなっています。

◆障がいのある人が障がいがあることで偏見や差別を受けているのに遭遇した場面（一般市民問6）



POINT
7

福祉情報の入手先として、インターネットの活用が6割を超え、デジタル化推進のニーズは高いと思われる。

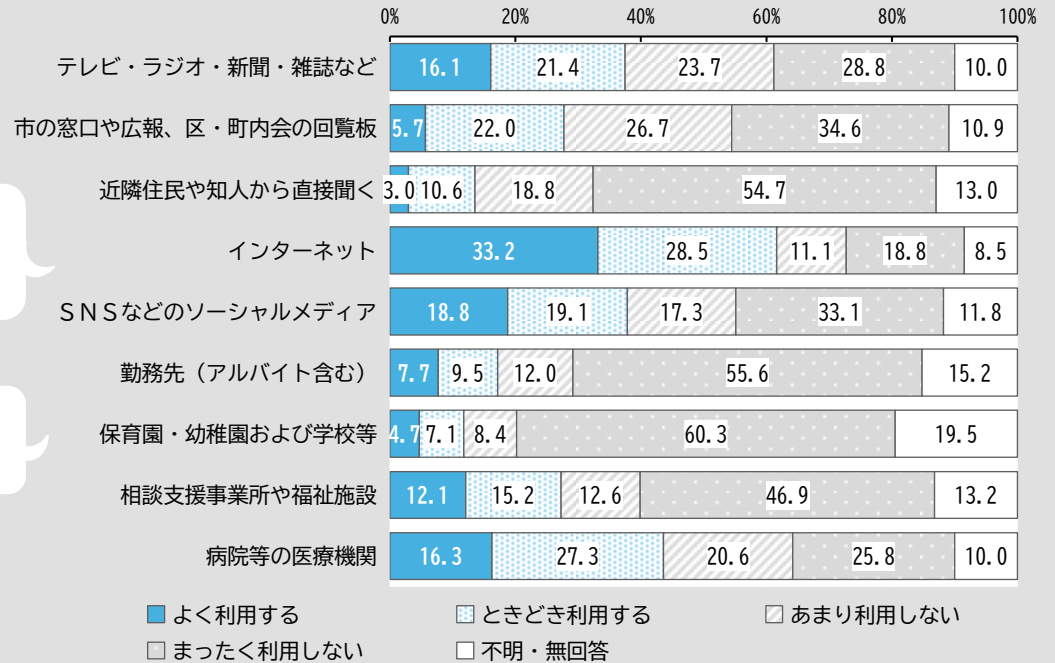
福祉などの情報の入手について、「インターネット」を『利用する』割合が61.7%と最も高くなっています。

*『利用する』＝「よく利用する」と「ときどき利用する」を合わせた割合

「インターネット」は障がいのある児童等で特に高くなっており、当事者だけでなく家族等がインターネットから情報を得ていることが考えられます。

「保育園・幼稚園および学校等」は全体では『利用する』の割合が低くなっていますが、障がいのある児童においては55.6%となっています。

◆福祉などの情報の入手先（利用する媒体等）（問 11）



高齢者の暮らしと介護に関するアンケート（一般高齢者） 自由記述まとめ

1. 公共交通機関・移動手段への要望

免許返納後の足がないという声が多くあがっています。高齢者の社会参加や通院の生命線として、バスやタクシー助成への強い要望があります。

- ・春日井市民の老人の特権がない。車がないと不便。バスが高すぎる。
- ・75歳で免許返納したが、移動が予想以上に大変で外出をためらう。バスの本数増便や、臨時バスを増やしてほしい。
- ・JRやバスの敬老パス（無料・低額）制度がほしい。
- ・オンデマンドバスは1週間前の予約が必要で不便。
- ・元気な高齢者が活動しやすいよう、商業施設へ気軽に行けるバスルートがほしい。
- ・通院などの交通費が高い。外出しやすい環境を求める。

2. 社会参加・居場所・孤立防止に対するニーズ

単身高齢者の増加に伴い、「誰かと話したい」「集まれる場所がほしい」というニーズが高まっています。

- ・年金が少ないので、お金をかけずに人と交流できる場がほしい。
- ・夫と息子を相次いで亡くし、今は何もしたくない状態だが、周囲の支えに感謝している。一人暮らしの人は話し相手がほしい。気軽にお茶を飲める場所があるとよい。
- ・町内で独居老人が増えている（24戸中5世帯）。LINE配信やAI会話ロボットなど、公共的に手助けする方法を検討してほしい。

3. 権利擁護・終活への不安

判断能力低下時の財産管理や詐欺被害への不安の声があがっています。

- ・判断力が低下した独り身の方が、高額な売買で騙されぬよう、誰かが立ち会う制度が必要。
- ・知人が脳出血で記憶を失い、カード暗証番号が不明で出金できず困窮した事例があった。自分たちも準備が必要だと痛感した。

4. 家庭内介護の限界と支援の質に対する不安

90代が妻を介護する事例や、施設費用の負担感、ダブルケア（介護と育児）など、家庭内の限界を訴える声があがっています。

- ・老々介護は悲惨であり、何とか対策を打てないか。
- ・私は90歳。認知症で歩行困難な妻を風呂に入れてやりたいが、体力的にもうできない。デイサービスがない日（土日祝）は入れない。せめて1日おきに入れてやりたい。
- ・特養に入所中の義母に月17万円支払っている。「なら自宅で見ろ」と言われそうだが、私も20年以上介護職をし、義母も介護してきた。これからの10年は自分のために楽しみたい。
- ・介護職員による虐待報道などが不安。市としてモニタリングを確実にしてほしい。

5. 情報の周知・相談窓口のわかりにくさ

「制度があるのかも知らない」「どこに聞けばいいかわからない」という声が多く、情報発信のあり方に課題があります。

- ・行政として使える制度をもっと広く周知してほしい。相談窓口の対応に差がある。
- ・高齢者でもより分かりやすく手続きできるようにしてほしい。
- ・「かすがいいいききポイント」の内容が分からない。
- ・家族が遠方の場合など、亡き後の手続き（相続・納税等）が1つの窓口で完結する仕組みがほしい。
- ・高齢者向けの相談窓口や設備が一覧でわかるパンフレットがあると便利。
- ・公的・私的な情報をまとめたパンフレットがほしい。

高齢者の暮らしと介護に関するアンケート（要支援・要介護認定者） 自由記述まとめ

1. 経済的負担と生活困窮

「年金だけでは施設に入れない」「在宅介護でも生活費が足りない」という、経済的な行き詰まりを訴える声があがっています。

- ・今は自宅で介護できているが、将来施設に入れるには資金の問題があり心配。
- ・92歳、身体障がいあり。妻の施設費用で預金を使い果たし、日々の食にも困る状況。税金や保険料の減免を強く望む。
- ・施設費用が月25万円と言われた。払ったら残された家族は生活できない。
- ・妻が骨折し施設利用中だが、二重生活でお金が足りず、タイミーでバイトをして食いつなぐ日々。
- ・老々介護の限界で施設を探したが、年金生活者には高すぎて入れない。ショートステイもホテル並みの金額。
- ・もっといい施設に入りたいが年金では無理。介護者の年収制限撤廃や補助金増額を求めたい。

2. 「老々介護」と介護者の心身疲労

高齢の配偶者や、病気を抱えた家族が介護を担う「老々介護」「認認介護」に関する悩みがあがっています。

- ・老々介護ですべてが不安。母（認知症）がデイサービスを嫌がり、介護している父（心筋梗塞歴あり）が心配。
- ・義母の介護に加え、家事・育児・仕事があり、精神的にも休まる時がない。義母は施設を拒否しており、嫁の私が見るしかない状況。
- ・老々介護で共倒れ。「遠くの親戚より近くの他人」を実感。
- ・介護している自分も身体障害者1級で要支援1だが、親の介護をしており先が心配。
- ・1人で介護しているが、私（長女）が倒れたら…という不安が常につきまとう。
- ・ケアマネジャー以外に、介護者の精神的ケアをしてくれる相談相手がほしい。

3. 移動手段の欠如と通院困難

通院や買い物のための移動手段がないことへの不安の声があがっています。

- ・とにかく足がなく病院に行けない。タクシーは台数が少なく、市バスも不便。
- ・雨の日など、家族が送迎できない時の通院に困る。近距離でもタクシーを頼むのは気が引けるし、助けてくれる人がほしい。
- ・ニュータウンは陸の孤島。免許返納一辺倒ではなく、高齢者が安全に運転できる支援（講習や改造費補助）や、乗り合いタクシーの充実を求めたい。
- ・車はあるが運転できず、自費でタクシー移動。介護者である自分の受診は後回しになりしんどい。

4. 単身・身寄りがないことへの不安

家族がいない、または頼れない場合の緊急対応や死後への不安の声があがっています。

- ・夫婦とも80代で親戚がおらず、保証人がいないためケアハウスに入れない。
- ・転倒して動けない時、病院への付き添いを頼める人がいなかった。緊急時の付き添いシステムがほしい。
- ・単身で身寄りのない高齢者が、死後まで不安なく生活できる行政の仕組み（公的な身元保証等）を充実させてほしい。

5. 医療・施設・サービスとのミスマッチ

「入りたい時に入れない」「必要なサービスがない」という需給のミスマッチの声があがっています。

- ・春日井市には医療を前提とした老健（介護老人保健施設）が少ない。
- ・発熱時（コロナ等）にショートステイ等が利用できず、入院も断られ在宅介護で疲弊した。緊急時に預かれる施設がほしい。
- ・医療機関と連携した施設がもっと増えてほしい。
- ・リハビリを受けて自宅に戻りたいが、常備薬の取り扱いがないため特養などを選ぶしかなく、選択肢がない。

障がい福祉に関するアンケート 自由記述まとめ

1. 「親なき後」の生活と住まいへの不安

保護者や介護者が亡くなった後の生活に強い不安を抱いている声が多くあがっています。

- ・現在は親と一緒に生活しているが、親が亡くなった後の生活すべての手続きができるか不安になる。
- ・親亡き後に障がいの重い子供が安心して生活ができる場所がほしい。

2. 障がい児への支援 「現在の悩み」と「将来への不安」

障がい児福祉サービスや、小学校に上がる時の壁、18歳の壁、卒業後の進路などへの不安の声があがっています。

- ・卒業後の中学生以上のこどもの居場所が少ない。施設によって専門性、支援の質の差が大きい。
- ・障がいに対しての理解の差がありすぎる。保育園の行事で集団行動が苦手にも関わらず、皆と一緒に参加しなければいけなかった為、大勢の前で親子共々辛い思いをした。

3. 経済的な不安と就労の悩み

障がい年金や就労支援事業所の工賃だけでは生活が苦しいという声や、就労の場での悩みがあがっています。

- ・マルチタスクやコミュニケーションが苦手な特性を理解されず、怠けていると誤解されたり、パワハラやいじめを受けたりする。
- ・将来への不安は収入面。今は何とか騙し騙しでやってるけど、いつ収入が途切れるか、働けなくなったらどうなるんだろう。この先どうなるのか不安で仕方ない。

4. 障がいへの理解不足と差別・偏見

障がいに対する偏見や心ない言葉等で、当事者や家族が傷ついている声があがっています。

- ・電車に乗っているときに身につけているヘルプマークを指差して「障がい者？」とさきやかかれて悲しい思いをしたので、ヘルプマークを外して電車に乗るようになった。

5. 行政手続きの複雑さと情報アクセスの壁

必要な情報が届かない、手続きが複雑でわかりにくいといった声があがっています。

- ・必要な情報や支援制度に、自分から調べないとたどり着けないことにもどかしさを感じます。必要としている時に、届かない、分からない。

6. 地域生活基盤の不足（移動・居場所）

移動手段（バス・タクシー）の不便さ、また余暇活動や居場所の少なさについての声があがっています。

- ・公共交通機関の本数が少ないので、将来親が高齢になったりして、送迎運転が不可能となった時のことを思うと心配・不安です。

7. 災害時の避難と備えに関する懸念

避難所生活への適応が困難であるため、「自宅に留まるしかない」という声や、具体的な避難計画が立てられないことへの不安の声があがっています。

- ・呼吸器など医療機器が必要であり、電気がないと困る。本当は避難所へ行きたい。